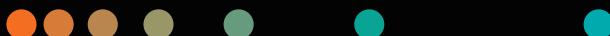


演題1:検体検査の効率化が拓く 臨床検査技師の診療参画 —限られたリソースで 最大の効果を生む取り組み—

演題2:変化の時代に対応し続ける 新検査室構築とその導入効果



www.siemens-healthineers.com/jp



日本医療検査科学会第57回大会 ランチョンセミナー14

日 時：10月4日(土) 12:00～12:50

会 場：第7会場(304号室)

座 長：小飼 貴彦 先生
(獨協医科大学 同大学病院臨床検査センター 教授)

演者1：濱田 佐智子 先生
(医療法人岡村会 岡村病院 臨床検査室 技師長)

演者2：松田 治恵子 先生
(医療法人徳洲会 八尾徳洲会総合病院 臨床検査科 技師長)

本ランチョンセミナーは整理券制となっております。

9月1日～9月12日の間に事前参加登録をすると、登録時にランチョンセミナーの整理券事前予約がおこなえます。
事前申し込み後の残数につきましては、会期当日の朝に配布を行います。

整理券及び当日の配布スタッフは、日本医療検査科学会第57回大会にて、対応させていただきます。
詳細は日本医療検査科学会第57回大会のホームページをご確認ください
※整理券の予約・配布はいずれも無くなり次第、終了とさせていただきます。

共催：日本医療検査科学会第57回大会
シーメンスヘルスケア・ダイアグノстиクス株式会社



演題1：検体検査の効率化が拓く臨床検査技師の診療参画 —限られたリソースで最大の効果を生む取り組み—

演題2：変化の時代に対応し続ける新検査室構築と その導入効果

演者1：濱田 佐智子 先生

(医療法人岡村会 岡村病院 臨床検査室 技師長)

演者2：松田 治恵子 先生

(医療法人徳洲会 八尾徳洲会総合病院 臨床検査科 技師長)

セミナー概要

- 岡村病院は「高度な技術をもって地域社会に貢献する」を基本理念に、内科、外科、心臓血管外科など14診療科を有している。特に下肢血管治療ではAct Against Amputation (AAA) をモットーに多職種連携で「救足センター」を発足し、チームで治療にあたっている。臨床検査技師も参画し、ABI検査、皮膚灌流圧検査、超音波検査、カテ室でのエコーガイドなど多岐に渡る生理検査を担っている。当時検査室には6名の検査技師が所属し、そのうち5名を生理学的検査に配置する必要があり、機器更新に際して検体検査の効率化は必要不可欠な要素であった。2024年11月、シーメンスヘルスケア・ダイアグノスティクス社製の生化学免疫自動分析装置「Atellica CI1900」を導入し、業務の省力化とメンテナンス負担の軽減を実現した。これにより、従来からの体制をさらに盤石なものとし、検査技師が専門検査や診療参画に注力できる環境が整った。本演題では検査室の取り組みと、多職種連携の未来展望を紹介いただく。
- 八尾徳洲会総合病院は、24時間の救急医療、高度先進医療、在宅医療、予防医療など、多機能的な医療を実践し、大阪東部地区の約100万人を支える基幹病院として地域医療の重要な役割を担っている。2025年度の採血室拡張計画に伴った検査室移設時に、機器の更新に合わせて新検査室の構築を行った。改革の目的は、誰が担当しても臨床に均一な検査結果を提供できる環境を整備し、TAT (Turn Around Time) の平準化を図り、技師が専門スキルを活かせる検査室を構築する事にある。今回の改革では、シーメンスヘルスケア・ダイアグノスティクス社製の生化学・免疫分析装置「Atellica Solution」、検体搬送処理システム「Aptio Automation」、工程管理システム「Atellica Process Manager」を導入した。さらに、日本初導入となる搬送システムとエアシュー ターおよび外来採血室からの検体輸送コンベア連携も実現した。本演題では、新検査室構築に至るまでの検討課題、新システムの導入効果、そして今後の展望について紹介いただく。